平成 29 年度　【地元論】のご紹介

公開講義『学生討論会』

平成 29 年 7 月 24 日、川西町役場より後藤様、遠藤様をお招きし、「私たちが住みたいまちとは」をテーマに学生討論会を行いました。

川西町が 2017 年から公立置賜総合病院周辺をメディカルタウンとする『生涯活躍のまち（ＣＣＲＣ）』構想に着手することを受け、誰もが生きやすい、暮らしやすい、人生の最後を迎えたいと思うまち、こんなまちなら住みたいなど、沢山の意見を発表しました。

《学生の学びや感想・意見》

・誰もが生きやすい、暮らしやすいまちをつくるのは難しいことだと思うが、川西町の自然の豊かさを大切にしながら創造してほしいと思った。

・川西町をよく知らなかったが、私の住む町でも人口減少が進んでいる。暮らしやすい・生きやすいまちにするためにはどんなことが必要なのか、どんな方法で人を集めるのかを考えることができた。また、町役場の方が、いい町、定住してもらえるようなまちにしようとしている努力が伝わってきた。

・地元の良さを活かしながら発展を目指すのは、難しいけど大切なことなんだと思った。若者から見た地元、高齢者からみた地元は違うと思うので、みんなが暮らしやすい、人生の最後はここで迎えたいと思える地元を考えていくことが大事だと思う。

・今日、川西町についての話を聞いて、ゆくゆくは山形県全体の問題になっていくのかなぁと思いました。また、真剣に一つの町について考えたことはなくて、今回考えて若者に必要とされているもの、年配の方に必要とされているもの、様々なニーズがあり、それをなるべくかなえていく努力が必要なのかなぁと思います。

・今日、川西町が住みたいまちにするには何があったらいいかを考えることで、自分が何を求めているのかということを再確認したし、第三者的な目線で、いろいろな世代を見つめ直すことで、ニーズを考えることができた。医療においてもそのような視点が必要と思った。

“地元”で働くこと

現在、地元でご活躍されている看護師・助産師・保健師の方より、“看護職の多様な働き方”や“地元で働くこと”について、ご講義いただきました。

～看護師の立場から～

平成 29 年 12 月 7 日

講師：大滝　徹　様　（鶴岡協立病院）

《学生の学びや感想・意見》

・「自分は何をするか、何をしたいか」など、自分の意欲・課題を見つけながら経験を積み、家族・地元・社会に還元していくことが大切だと考えた。看護師という「専門的な立場」として、どのような活動をしていくべきか社会（地元）は何を必要としているか、それに対し、自分は何ができるか考えることも大切だと考えた。

・地元の問題を明らかにして解決していく役割が地元で働く看護師の役割でもあるということ。

・地域では、行政や社会システムから外れ、様々な背景が複雑に絡み合った状況により、生死を左右するレベルで困っている人が多くいたということから、地元で働く看護職は高齢者をはじめとする患者に多種多様に変化させて看護するのが大切だと思われる。

・様々な経験によって、自分ができることの範囲やケアの幅が広がっていくのだなと思った。また、様々な社会問題に対して、社会にはいろんな立場の人がいろんな方法で解決に取り組んでいる中、自分は看護師という立場に立とうとしているから、その立場を理解しなければならないと思った。

・専門分野を追求することは「自分の中の最良を尽くすこと」に繋がるということがわかった。

・地元で働くなかでも、自分がやりたいことに素直になったり、新しいことに挑戦したりすることは大事にしたいと思った。自分が決断したことには最後まで責任を持つことが大切で、どんな時も他人のせいにしてはならないと改めて感じた。これから自分がどのようなことをしたいのかを考えて取り組んでいきたいと思った。

・今は看護について学びたいという気持ちが強く、地元に残っていたいというよりも技術や知識を身に付けたいと考えている、しかし、目標を達成し、これからどこで一生を終えるのかと考えたときに、家族のいる地元に帰りたいと思うかもしれない。お世話になった土地に恩返しをし、誰かの為に役に立てる人間でありたいと思った。

～助産師の立場から～　　平成 29 年 12 月 14 日

講師：奥山由枝　様　（さとうウィメンズクリニック）

《学生の学びや感想・意見》

・地域に生活をおいている産婦さんにとって、地域に根ざした病院・クリニックの安心感は必要だと思う。時間をかけ、ゆっくりとお産に向けた指導やケアを行うことで、身体的にも精神的にも満足感を感じると思う。お母さん、赤ちゃん、その家族や地域の人との関係性が大切になると考えた。

・相手のことを思いやって考えること、地域の方に病院を近く感じてもらえるように工夫をしていくことが大切だと思いました。そのために、交流会や産後ケアなど、産んで終わりではなくその後まできちんと寄り添っていくことが、地元の方の信頼を得る上で必要だと感じました。

・助産師として、深く寄り添うことが大切だと思いました。関わる期間として、思春期から老年期まで、幅広いということだったので、地域で自分がどのように働きたいか、人と関わりたいかという目標を持つことが大切だと思った。

・市町村との連携がとても大切であり、妊婦の教育環境を把握し、必要と思われるケースは市町村への連絡をするという点で、それぞれの患者さんに合わせたケアということがより大切になるのだと考えた。

・改めて助産師という仕事のすばらしさ、一つの命が生まれることの神秘さを考えることができた。とても貴重なお話を聞けてよかったです。

・助産師の職業に興味を持っていたので、動画なども見れて勉強になった。どの医療職でも患者さんに寄り添うということは同じだなと思った。患者さんやそのご家族に寄り添える人になりたい。

・助産師さんの話を聞くのは初めてで、今まで知らなかったことが沢山あり、多くのことを知れた良い機会となりました。助産師は「産む」だけではなく、その周りのケアや行事も積極的に行っていて、自分の持っていたイメージよりもとても大きな職業ですばらしいと思いました。

・助産に関して興味を持っており、今回の講義で助産師の仕事内容を理解し、寄り添うことが非常に大切であるということを理解した。地元で働いている中で地域の状況を理解し、保健師との連携を行っていることを知り、情報を共有することの必要性を改めて感じた。

～保健師の立場から～

平成 30 年 1 月 11 日

講師：結城　俊祐様　（尾花沢市役所）

《学生の学びや感想・意見》

・「ゆりかごから墓場まで」と保健師の仕事は言われていて、とても幅広い分野で活動していると知りました。また、実際に暮らしている地域や家庭に入って、その人たちに合わせた対応が求められていることがわかりました。看護師とは違って、保健師はずっと近くにいるわけではないので、だからこそ何を行わなければならないかをしっかりと考える必要があると強く感じました。また、保健師の仕事にはマニュアル化されたものがないので、本当にその場に応じた臨機応変な行動が求められるのだとわかりました。保健師について、様々なことを知ることができるとても良い機会でした。

・保健師といわれても、今まで仕事の内容があまり浮かんできませんでした。しかし、幅広い年齢層の方と関わり生活の支援をしていることがわかった。私は育児支援に興味をもっているので、保健師としてどのようなサポートの仕方があるのか、これからもっと勉強したいと思った。保健師として働くうえで、地元の特徴をしっかり捉えていて、私自身ももっと地元について知らなければならないと思った。

・私は、将来看護師になるか保健師になるか悩んでいて、今もまだ悩んでいるけれど、様々な人と関わることができて、地域と密着して仕事をしていくことができるということで、とても魅力を感じ、保健師とはとても良い仕事だと知ることができました。様々な仕事内容がある分、多くの知識やスキルを身に付けていかなければならないと思ったし、いろいろな年代の人とも関わるので、会話のスキルがとても必要だと思った。

・保健師のイメージが女性のイメージだったので、男性の保健師が山形県内にも全国にも思っていたより多くて驚いた。妊婦や褥婦と関わることに戸惑ったという話があったが、保健師の仕事の幅は本当に広いと感じた。“男性”としてではなく、“保健師”としてママたちと関わろうとしたという言葉が印象的であった。将来、母性や小児の分野で働きたいと思っているが、自分が“女性”だから何も壁がないように感じていた。しかし、“看護職”として働かないと、対象者たちと信頼関係を築くことは難しいのではないかと思った。どこでどのように働くにしても、結果気持ちが大事だと今回の授業で学んだ。